



地域に感謝の気持ちを込めて

富士重工業グループの社会貢献は、輸送機器メーカーとして果たすべきことを中心に取り組み、地域の皆さまに喜んでいただける存在となることを目指しています。また、社会貢献を企業風土として根づかせ、真に心のこもった活動を行いたいという考えを社会貢献方針に織り込んでいます。



社会貢献委員会

社会貢献方針

- 私たちは、科学技術やのりもの文化の発展、交通安全の普及に貢献します。
- 私たちは、ものづくりの楽しさ、大切さや尊さを知る、人づくりに貢献します。
- 私たちは、私たちが活動する地域の発展に貢献します。
- 私たちは、一人ひとりもよき市民として、社会に貢献することを互いに応援します。

乗り物文化の発展・交通安全の普及

交通安全運動

各事業所では、警察や安全運転管理者協会などの協力のもと、事業所に白バイ隊員を招いてのオートバイ安全運転講習会を開催しています。また、夜間における交通事故防止用の反射材を電柱に貼付する活動や、事業所周辺の通学路などでの街頭交通指導など、さまざまなイベントを通じて交通安全・事故防止のための活動を推進しています。



左：夜間における交通事故防止用の反射材を電柱に貼付する活動
右：通学路での交通安全指導

交通安全啓発活動

当社は、子ども向けサイト「スバルキッズ」の運用を開始し、子どもたちの交通安全意識の向上に取り組んでいます。

また各事業所では、従業員に対しても長期連休前をはじめ、折に触れて交通事故防止の啓発を行うなど、交通社会の一員としての意識づけを積極的に行っています。



子ども向けサイト「スバルキッズ」

<http://www.fhi.co.jp/kids/>

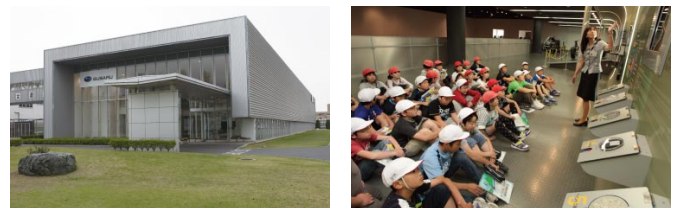
スバルビジターセンター

スバルビジターセンターは2003年7月15日にオープンし、工場見学などで矢島工場に訪れるお客さまにスバルの歴代のクルマや世界記録を樹立したクルマ、スバルの個性的な技術や環境への取り組みなどを展示し、紹介している施設です。2013年度は95,963名のお客さまにご来場いただきました。

見学の申し込み（10名～200名）

スバルビジターセンターの詳細については、
こちらをご覧ください

<http://www.subaru.co.jp/about/showroom/vc/>



スバルビジターセンター

TOPICS

吉永社長による大学キャンパス出張授業「個性を活かして生きようよ」

2013年10月、中央大学の多摩キャンパスにおいて、学生たちに世界に視野を広げて学んでもらうことを目的とした講演会が行われ、吉永社長が登壇しました。自身の経験や事業戦略を通じてたどり着いたスバルの「個性」について講演し、総勢約1,100人が吉永社長の話に耳を傾けるとともに、活発な質疑応答も行われました。

また、屋外ではスバルのクルマを展示したほか、「アイサイト」の体験も行い、多くの学生が足を止めてスタッフの説明に聞き入っていました。



約600人収容の教室は満員となり、隣の教室では映像中継も実施



屋外展示や「アイサイト」体験も実施

出前環境授業

宇都宮製作所では、環境への理解を深めてもらうことを目的に、出前環境教室を開催しています。この活動は、宇都宮市内の小学校5年生を対象に、当社の従業員が講師として出向き、実験や授業を通して地球温暖化の仕組みや、環境についての理解を深めてもらうことを目的としています。2013年度は23校43クラス（1,368名）で開催しました。活動を始めた2006年から累計263クラス（8,399名）となっており、地域に定着した活動となっています。

また、2013年度からは半田工場がある愛知県半田市の小学校にも活動の場を広げています。3校、270名を対象に実施し、父母参加型で紙飛行機づくりなどの授業を行いました。



宇都宮市内の小学校での環境授業

会社見学の受け入れ

本社では、年間を通じて10件程度、修学旅行や社会科見学で東京を訪れた中高生を対象に、会社見学の受け入れを行っており、社会科学習の一助となることや、生徒の皆さまが将来の進路を考えるきっかけづくりとなることを目指しています。当社の開発～製造～販売や管理部門のさまざまな仕事内容を説明して、1台のクルマがどのようにお客さまのお手元に届くのかをご理解いただき、それに携わる多くの人の仕事に興味を持ってもらえるように工夫しています。



会社見学の様子

特別授業「生き方を学ぼう」を小学校で開催

2006年から、スバルの開発者やラリードライバーの経験を小・中学生、高校生に語り、自分の将来像を見据えることや夢に向かって努力することの大切さを伝える活動を続けています。

2014年6月には、群馬県太田市立生品小学校で、ラリードライバーの新井敏弘氏を講師として招き、「生き方から学ぼう・自分にできること」をテーマとした特別授業を実施しました。講演後には、校庭でラリーカーの見学やデモ走行を行いました。



講演を行った新井敏弘氏（左）と当社従業員（右）



迫力のあるラリーカーの走行に子どもたちも興奮

地域貢献

「スバル地域交流会」活動

群馬製作所ではお取引先とともに「スバル地域交流会」を組織しています。「スバル地域交流会」は、太田市と周辺地域住民との相互交流ならびに地域発展を図り、住み良い街づくりに貢献することを目的としています。

「スバル地域交流会」2013年度の主な活動

- 「花いっぱい運動」花の苗配布（6月、9月、12月）
- チャリティふれあいコンサート（9月、12月）
- チャリティ & 親睦ゴルフ大会（11月）
- 地元出身落語家による落語 & 講演会（3月）

チャリティコンサート

スバル地域交流会で実施している「ふれあいコンサート」では、不要なタオル、石鹸、日用品などをお客さまにご持参いただき、それらを福祉協議会へ寄付する活動を行っています。



ふれあいコンサート

詳細は「スバル地域交流会ホームページ」をご覧ください。

なお、国内関連企業部会参画の（株）イチタン、桐生工業（株）、（株）スバルロジスティックスの3社は本交流会の会員となっています。

<http://www.chiiki-kouryuukai.com/>

地域清掃活動

当社は、定期的に従業員による各事業所周辺の美化・清掃活動を行っています。今後も地域の美化活動への取り組みを継続していきます。



左：宇都宮製作所「クリーンキャンペーン」
右：埼玉製作所「びかびか北本お任せプログラム」

ボランティア活動支援

当社は社会貢献方針に、従業員一人ひとりが市民として行う社会貢献活動を応援することを明記しています。これは、従業員が積極的に社会貢献の意識を持つことにより、社会に貢献する風土を全社に根付かせることを目的としています。

これを具現化する取り組みとして、ボランティア活動をしている従業員を表彰する制度を2006年に創設し、2014年6月の第9回表彰式では3名の従業員を表彰しました。



前列：表彰を受けた従業員3名
後列左から：細谷常務、近藤副社長、吉永社長、高橋（取）専務

Subaru of America, Inc.での取り組み

水の未来を守るための啓発活動を支援

SOA（米国・ニュージャージー州）は、グリーン・インフラストラクチャ※が持続可能な水の未来を生み出すのに有効であることを知ってもらうため、米国でのパートナーであるペンシルベニア州立大学放送局とともに、参加型ドキュメンタリー「Water Blues Green Solutions」を支援しています。このドキュメンタリーは、洪水、干ばつ、汚染といった問題を解決するための戦略開発を推進することを目指したもので、そのために河川や飲料水源の保護・復元・保存に関する新たなアイデアを採用しています。

※グリーン・インフラストラクチャ：自然生態系がもつ機能に着目し、都市の中に取り込むことで課題を解決しようという取り組み。例えば、ヒートアイランド現象の抑制に向けた屋上緑化がこれにあたる。



米国での食糧支援活動

SOAは、2008年から全米各地のコミュニティで81万8,000食以上を提供し、十分な食事が得られない人々を支援しています。また、SOAの従業員は、サウス・ジャージーのフードバンク※に寄付された食品の仕分けや取りまとめに協力しています。それらの食品は、生活に困窮する家族や子ども、高齢者に配布されています。

※フードバンク：品質には問題がなく包装や形状の理由で規格外となった食品を集め、食べ物に困っている人や福祉施設などへ無料で提供する活動のこと。



Subaru of Indiana Automotive, Inc.での取り組み

イノベーション・チャレンジ・アワード受賞

SIA（米国・インディアナ州）は、「2013 Innovation Challenge Award for Zero Waste」を受賞しました。Campbell InstituteとStewardship Action Councilが主催するこの賞は、革新的なプログラムの計画・実施によって環境・健康・安全に関する課題解決に取り組んだ企業や団体に対し、その成果を表彰するものです。SIAはZero Waste（ゴミゼロ）への挑戦が評価されました。



Subaru Canada, Inc.での取り組み

ドナルド・マクドナルド・ハウス(トロント)から贈呈

病気で入院している子どもと付き添い家族のための滞在施設「ドナルド・マクドナルド・ハウス」。SCI (カナダ・オンタリオ州) は、この施設を継続的に支援しており、感謝の証としてアート作品が贈呈されました。ハウスに滞在する子どもたちが注射器を使って描いたものです。



Subaru Research & Development, Inc.での取り組み

SRD(カリフォルニア)見学ツアーを開催

SRD (米国・ミシガン州) のカリフォルニア事業所において、2013年5月、見学ツアーが実施されました。6歳の子どもたちと保護者が参加し、SRDの説明のほか、実際のクルマを用いて車両やアイサイトの説明が行われました。参加者の中でも、父親の皆さんが熱心に聞き入っていました。



Subaru of China, Ltd.での取り組み

中国四川省雅安に災害復旧車両を寄付

SOC (中国・北京市) では、2013年4月20日中国四川省で発生した地震により、被害が最も大きかった被災地域を中心に、フォレスター5台を寄贈しました。四川省碧峰峡パンダセンター、廬山県林業局、教育局、天全県衛生局、農業局にそれぞれ寄贈された車両は、住宅の復旧や学校など建物の補強、被害者の移送、医薬品をはじめとする支援物資の搬送などさまざまな目的に使用され、被災地の復興支援に寄与しています。



寄贈されるフォレスター